

龍南

| | |
|-------------|---|
| 雑誌名 | 龍南會雜誌 |
| 巻 | 1 5 1 |
| ページ | 3 0 - 3 4 |
| 発行年 | 1913-06-20 |
| その他の言語のタイトル | 竜南 |
| URL | http://hdl.handle.net/2298/6245 |

龍 南

テネ、ラクス

○丁度今弦月の宵には忘却された武夫原に黄色い待宵草が一面に咲いてゐる、其處には放棄された小使もあれば顧みられない哲學もあらうし打ち捨てられた新聞紙もある、廣く劃つた龍田山麓では人跡未到の松林さへあるのだ、言ひ舊した事でも考へ盡した事件でも個性から割出して見れば無味淡泊な三宅克己のやうな風景にもなれまた多少神祕的な沈痛の情調を帯びたカザンの畫面になる事もあるだらう、彼方此方に屯ろした種んな群は依然としてかカデンシヨにテネラクスして居るやら革新運動の先驅を以つて自任するやら酒精に没頭したり芝居に狂を標榜したり森林生活に超絶したり「潑刺たる青春」を表現したり新浪漫を氣取つたり神秘主義を逐ひ遂慾主義を崇拜し或は何或は何之を分類するに困難を感じるのだが其のテネ、ラクス黨の一人が何か云つて見たい

○闇を走り去つた彗星の如き先人は反響の起らない空漠たる努力に飽き飽きしたと言つた、そして私等も其の後を追つて行くべき位置に立つ事になつた、廣い道路だ、沙漠のやうだ、砂濱のやうだ、盛り上つた砂丘の影には無數の羊が亡げてゐる、何様な道をとつて行かなければならぬかも至難しい問題である、北斗星が輝いてゐるにも拘らず惑星を目標としてゐるかも知れない、然雖自分自身で、惑星を北斗星と信じ切つて居たならば耻辱を思ふ事はない筈なのだ、要するに眞面目である、淺薄幼稚舊思想と云つた風の非難は忝けない指導として傾聴するけれども不眞面目と誹られては青い脈管を廣い額に隆起せしめなければならぬ、

○重い負擔を荷うて龍南に立つ事になつては其の初陣に子供らしい身振ひを感じて身体が固う鯨鉾張る以後一年間に何れだけの道を歩くかを見て下さる同志の方は或は何んとか言つて呉れるかも知れない、何も言つて呉れないかも知れない、呉れなくつたつて詮方がない、兎に角尻に松明をひつ括られた牛である、走れるだけ駛つて見てそして尻尾に火が燃ぬ

つけば止むを得ないときあらめるより他に方法がない、

○所がテネ、クラスは只龍南の残り屑を少しなりと掻き集めたり少々手前味噌つたりしやうと云ふ惡戯に近いので時には御叱責を蒙るかも知り難いのだが龍南欄の一隅にあつても太した障壁になるまいとまあ自分だけで考へて見る、

○龍南の思潮を論ずるか新時代校風論とかが起らねばならぬ傾向がありはすまいかと思はれるやうな風雲がないでもなかつた、端艇事件からチブス問題へチブス問題から習學寮自治問題、龍南參事會問題へ、それからそれへと革新の氣運とか思潮動搖の兆とか海嘯の如きものありかけたが惜むらくば其の儘に閉口垂れたらしい、何日か必ず斯の問題が輿論となつて出現するに違ひないと豫言した人もある、閉口垂れたのでない捲土重來だと言ふ人もある、最初の希望が發起人の意志を通じさへすればよかつたらしいと云ふ人もある、名を賣る爲めの謀叛だと言ふ人もある、平凡を忌み波瀾を好むのだと云ふ人もある、誰かは或る人を指して民黨の首領と云つた、誰かは

浪人組だと云つた、買収された男も居ると噂する人もあれば全然演說稽古場の群衆にされたと怒る人もあつた、何れ變体して再び三度盛り返す氣運であるだらうが新総務の手腕は學校役員會に今迄と違つた意義を持たせて輿論の代表團體を捏ち上げる事に結末づけるかも知れない、テネラクス記者は豫言をしないで成行き報告者となる事にする、

○チブス事件以來學校當局の頑強大に柔いだとの噂がある、舊道徳は既に若き群れには破壊されて終つた、舊道徳を基礎とした善惡はその意味の變化を見る現代となつた、個性主張自我發表などはツアラトウストラなどの猛烈なものから血の枯れ盡した崇敎反對などを經過して著しく覺醒を高唱する時代に移つて來た、壓制主義は奔馬を押ふるの最善方法でない、刑罪主義は一種の反抗心と呼び起す、幾度か繰り返して叫ばれた言葉「探偵が何だ」は觀樂の淵から湧き返る事を沈めて來たまでに學校當局者は寛大主義に傾いたのださうだ、例外は暫く置、こうせ大多數は常に財布の悲哀を感じ勝ちなのだ、有り餘つたボーボタルを提げてゐる者に閑居したりたつ放り

出したるすればひよつとしたらひよつとする結果にならなくてもないが、高が月給制度の支給過多でない者計りなんだ、遣る所までやらした所が天地震動する程の悪事を働く事も出来まい、驚天動地したならそれは活動寫眞の間違ひだ。乱暴狼藉であつた所が肉屋の疊と襖位な所と落ちつくのだ、奴隷でさへ遠い過去に解放された、奴隷でさへ遠い過去に解放されたのだ、

勿論氣紛れに大それた仕事にまで熱を更へたとした所がそれは單に其の人一個人の流行である、流行は繰り返す事が時々ありもしやうが忽ちに時代遅れとなるべきもの、一生涯に執念深く纏ひつく程の威力をも持つまいでないか、何れ「彼の人の若い時は」となつて終ふやきもき干渉しても其れ程の効果もないだらうし要するにつまらない事だ、

○熊本市の街を灰色に横つた巨漢と云つた人もある唯見る龍大なる村落と評した人もある、花岡山から見渡したところ巴里とか伯林とかに似てゐると云つた人もある、三軒町を北へ行くと龍田山が丁度京の東山を想はしめるのださうだ、新坂からの熊本大觀

が天下一品だと漱石さんわ言へば浩浩歌客は天津街道程壯大な道路は少ないと譽めちぎつた、森林の間に横つた巨漢と云ふ事に結末がついてその端れには更にテチラクステチラクスの松林がある、川の水が奇麗であつたならなどは決して云はぬ事森林時代は白川の濁流滔々であつた所が何等の故障も起らない筈だ、曉鐘を如何に衝くべきかを想ふ思索家も森の人なれば如何に聞く可きかを考ふるも森に生息してゐる、森の市街の森の一劃にはテナラクス以外に如何な新現象が起るだらうか來學年劈頭の新運動が待ち遠しく思ふ春になれば若芽夏になれば濃緑で埋まる、棕梠にポロポロと花が咲く、新陳代謝ばかりで夜となり曉となる時新進思索家先生が抱負實現の期を待ち遠しく思ふ。

○交通遮斷と云ふ面白からぬ文字が寮の扉に貼られてある、寮の玄關には裝飾として靴拭ひと破れた鐘と可愛らしい電燈がある、この白くて圓い電燈の火屋は如何考へて見ても交通遮斷なる文字と釣り合はない交通遮斷と云ふ字には赤硝子の六角瓦斯燈が丁度ふさはしい、この不釣合が續いて居る間は我等

は編輯室を七不思議の窓の中へ閉ぢ込めて置かねばならぬ、曾て開かれたのを見た者がないと入學當時に脅された本館正門の扉の傍なる晝でも蚊の飛び廻つてゐる室。などと云つて見ればチブス菌が落ちてゐやすいかと思はれるのと同程度の凄味は出て來さうなものだ、近頃も一人二人新チブス患者を出したと云ふ噂もあるから猶更強いて薄氣味惡いと稱する男も居る其の癖別に薄氣味惡る相な表情もしないのが普通な状態になる程恐怖心が免疫性になる時分には回歸熱が流行するかも知れぬさうだ、近頃目醒しい變化は木の香新しい便所が舊るい便所と重り合つて目白押ししてゐる事だが其れが回歸熱と如何なる關係があるか僕は知らない、依然として武夫原には捨てられた小便がある、

交通遮斷と白い電氣燈の火屋と七不思議の窓と舊るい便所と新しい便所と武夫原の小便とは關係があるやうでないやうだ、人跡未到だと思つて居た裏山の松林は熊笹がすつかり刈りとられた。更に一つを加ふるならば――。

●五月二十四日午前八時五分より同十三分迄、

龍 南

大なる赤煉瓦建物の日影、

同じやうなる服裝の男大勢

煉瓦壁に素張らしき張り紙あり、

○何だ 何だ、

○珍しいものかい

○支那だな

○讀んで見ろ 讀んで見ろ、

或る者は登場し或る者は退場し或る者は

仰ぎ或る者は考へ雜然として何れの口より

發する言なるやを知らず

○東亞同文會と云つたものがあつたつけねに

○熊本や福岡から盛に支那浮浪志士を出すとき

○支那時局は加州問題に壓倒された形だ、

○日本人と支那人とを一堂に會せしめた時各一團を

形づくつたら如何なるね、それが睨み合ひのやう

な具合に、

○だが發表されて見ればもつと早くこんな機關があ

つてもよかつたと思ふ

○必要だと云ふ結論かい

○うむ必要だと云ふ結論が入會する意志の發表であ

るなら前言を取り消す、
號鐘鳴る、人々の散集急激となる、

○すばらしい廣告だ

○餘りに唐突ぢやないか

○策士が居るね、

登場者は凡て一瞬間の瞥見をなすのみとなる、

●同日午後一時前後の同場所

強烈なる日光が此の張紙と赤煉瓦に投げかゝる

○賛成者は熊本市に於ける名士と云つた風だ、

○何だか起業會社株式募集政策を思はすね

○何しろ大仕掛だ 驚かされたよ

○此の發起人は其の實賛成人で賛成人の中に黒幕發起人があるとしたら魅^{はか}された事になるだらうか知ら

○發起人は發表以前に幾度會合熟議したらう、二三の座談から起つたとすれば被告は其の勞力以上の

効果を享けてゐるんだな、乃公も驚いた、

○瓢駒は罪惡ぢやないよ、

○誰か盜賊と繩だと云つたよ

○バラ以後の煮沸水さ

○だが散髪床の湯沸器より不完全だつても乃公は毎日飲むでゐる、

○近頃の大事件だ、

○龍頭蛇尾でも尾大不振でも敢へて差支へない筈だと言つた人もあるぜ、

○冒頭より結末まで脱兎だつたら困るかい、

○恐らく近來の秀逸だらうね、少くとも巨大なる點に於いては、感想でたつたこれだけたあ氣の毒だ

○乃公はね、初めて見た時これを貼りつけるのに隨分骨が折れただらうと思つた、

○乃公はね、臺灣征伐と日清戦争を思ひ出したよ、國論沸騰して始末にたへない時に戦争をわつ初めて民心統一を計るんださうだ、

○餘り穿ち過ぎるな、卒業生の大きな置土産だと思つてゐようよ、

○參事會と同じ出發點かも知れない、

○大きな聲で言はれないがね、

○大きな聲で言はれないがね、

(五、二四、夜さんやう)